

企画名：－ナーシングバイオメカニクスに基づく－ 生活支援技術セミナー 初級編
実施日：7月25・26日
講師：紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師) (株)ナーシングサイエンスアカデミー 技術統括責任者 原川静子 インストラクター(木村恵子 伊藤徳子 田部井淑子)
企画実施組織 主催：名桜大学看護実践教育研究センター 金城祥教・鬼頭和子・八田早恵子・金城千恵美 共催：北部地区医師会病院 柴山順子・金城明子・成田奈緒子・具志堅時乃
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 今回も名桜大学看護実践教育研究センターと公益社団法人 北部地区医師会病院共催で「生活支援技術セミナー」初級編を開催させていただき運びとなりました。講師には、前回も同様、看護・介護の生活支援技術において「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の開発研究でご活躍中の筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師 紙屋克子先生をお迎え致します。
企画実施報告 1) 開催日時：7月26日(土)9:00～17:00、7月27日(日)9:00～15:00 2) 場所：北部地域看護人材育成支援施設(名桜大学看護学科棟 2F 基礎看護実習室) 3) 内容：①講義「生活支援技術の基礎理論と実践」 ②Physical assessment 人の身体と看護介入(ナーシングハンドケア)下肢帯・下肢の例 ③体位変換 ④バランスボールを活用したケアを実践する人のためのエクササイズ 4) 対象：看護・介護職 35名(県外からの受講者2人)
企画の実施評価 ・アンケート結果より 1) 総合評価(回答者35人) ①良かった34人 ②やや良かった1人 2)ご意見・ご感想等 ①人工呼吸器装着中の患者の坐位・端坐位などの離床について学んでみたい。 ②微振動を利用したオムツ交換や寝衣交換などの生活援助技術などがあれば受けたいです。 ③ストレッチボールの(バランスボール)使用方法が分かった。他者+自分のためにもなると感じた。 セミナーは、紙屋先生指導のもと生活支援技術を理論的に学ぶことができ、演習では、「力を使わず腰に負担のかからない体位変換」「拘縮を予防し改善するための新しい看護技術」などを具体的にシュミレーションを導入しながら、分かりやすく説明していただきました。 また、2日間のセミナー終了後に紙屋先生から修了証書が35名に授与されました。 受講生には修得した看護技術を実践に活かして、患者や家族への質の高いケアの提供と、それぞれの病院・施設の発展に貢献することが期待される。

## 今後の取組み

今後の課題提案について(紙屋先生の講義資料より)

### ① エビデンスの確立

成功例の集積：身体解放技術による自然回復例などの判別、  
生活予後診断、フローチャート、パスなどの進化  
評価方法：脳波、血流、筋硬度、皮膚温、加速度センサー等

### ② NICD 普及の戦略

実践者の育成⇒学会認定看護師  
診療報酬化

### ③ 今後の課題

チーム医療、地域包括医療、NICD 実践病院の拡大

今後も看護ケアの質の向上へ向けたセミナー等を行っていききたい。



初級編の参加者

企画名：－ナーシングバイオメカニクスに基づく－ 生活支援技術セミナー 中級編
実施日：11月2・3日
講師：紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師) (株)ナーシングサイエンスアカデミー 技術統括責任者 原川静子 インストラクター [日高紀久江(筑波大学教授) 木村恵子 伊藤徳子]
企画実施組織 主催：名桜大学看護実践教育研究センター 金城祥教・伊波弘幸・鬼頭和子・吉岡萌・東江五子 共催：北部地区医師会病院 柴山順子・金城明子・成田奈緒子・具志堅時乃 インストラクター：沖繩愛楽園 大城依子
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 今回も名桜大学看護実践教育研究センターと公益社団法人 北部地区医師会病院共催で「生活支援技術セミナー」中級編を開催させていただき運びとなりました。講師には、前回も同様、看護・介護の生活支援技術において「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の開発研究でご活躍中の筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師 紙屋克子先生をお迎え致します。
企画実施報告 1) 開催日時：11月2日(土)9:00～17:00、11月3日(日)9:00～15:00 2) 場所：北部地域看護人材育成支援施設(名桜大学看護学科棟 2F 基礎看護実習室) 3) 内容：①講義「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」 ②演習：生活支援技術 Physical assessment, Nursing hand care 身体の理解（基礎理論編） 体位変換 ③ケアを実践する人のためのループループを活用したエクササイズ 4) 対象：看護・介護職 21名(県外からの受講者0人)
企画の実施評価 ・アンケート結果より 1) 総合評価(回答者21人) ①良かった20人 ②やや良かった1人 2) ご意見・ご感想等 ①自分の体のメンテナンスも楽しく出来るので、他の人にも伝えられるように(教えられる)します。②実践が多く楽しかったです。復習タイムでお互いに再度ふり返る事が出来たので理解できているかの再確認が出来ました。 ③講座をうけるたび感激します。上級なども参加したいです。 セミナーは、紙屋先生指導のもと生活支援技術を理論的に学ぶことができ、演習では、「力を使わず腰に負担のかからない体位変換」などを具体的にシュミレーションを導入しながら、分かりやすく説明していただきました。また、2日間のセミナー終了後に紙屋先生から修了証書が21名に授与されました。 受講生には修得した看護技術を実践に活かして、患者や家族への質の高いケアの提供と、それぞれの病院・施設の発展に貢献することが期待される。参加者は臨床看護師並びに看護教員からなり、日々の

実践活動の振り返りとして大変参考になったとのアンケート評価があった。また新たな気持ちで現場に戻ることができたとの声が多く聞かれた。ケアリング理論は看護者にとって、自らの実践を導く理論であるばかりでなく、自信と勇気を与えるものといえよう。

#### 今後の取組み

今後の課題提案について(紙屋先生の講義資料より)

#### ④ エビデンスの確立

成功例の集積：身体解放技術による自然回復例などの判別、  
生活予後診断、フローチャート、パスなどの進化

評価方法：脳波、血流、筋硬度、皮膚温、加速度センサー等

#### ⑤ NICD 普及の戦略

実践者の育成⇒学会認定看護師                      診療報酬化

#### ⑥ 今後の課題

チーム医療、地域包括医療、NICD 実践病院の拡大

今後も看護ケアの質の向上へ向けたセミナー等を行っていきたい。



中級編の参加者



企画名	～生活支援技術に基づく口腔ケアの理論と実際～
実施日	11月1日
講師	紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師) 黒岩恭子(村田歯科医院 歯科医師) ・ 日高紀久江(筑波大学教授)
企画実施組織	主催：名桜大学看護実践教育研究センター 金城 祥教・安里 葉子・吉岡 萌 共催：北部地区医師会病院 柴山順子・成田奈緒子・具志堅時乃
企画の目的・概要	(企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。) 意識障害患者さんのほとんどが廃用症候群を伴っており、肺炎や褥瘡・尿路感染等の2次的合併症のリスクが高くなっています。また生活の再構築に向けてADLの拡大が必要となることから栄養管理が重視されます。 このたび、筑波大学名誉教授の紙屋克子先生、筑波大学教授の日高紀久江先生をお招きし、生活支援に基づく口腔ケアについてご講演・講義を頂くことになりました。 また、高齢者の死亡原因第一位は肺炎です。体力の低下に伴う口腔機能の低下が原因です。黒岩恭子先生(歯科医師)は、従来の清潔を目的にする口腔ケアではなく、口腔機能の維持・回復を目指した独自の口腔ケアを考案され食べられる口づくりを目指し、くるリーナブラシ・モアブラシを開発されました。 今回はモアブラシによる誰にでも簡単にできる口腔ケア・口腔リハビリを教えてください。
企画実施報告	1) 開催日時：11月1日(土)9:00～17:00 2) 場所：北部地域看護系医療人材育成支援施設(名桜大学看学科棟 2F 基礎看護実習室) 3) 内容：①講演「長期意識障害・寝たきり(廃用症候群)患者の生活行動回復技術」 ～食べる喜び・生きる力～ 講師：紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師) ②講義「摂食嚥下の仕組み」 講師：日高紀久江(筑波大学教授) ③講義・演習「口腔ケア・口腔リハビリ」 講師：黒岩恭子(村田歯科医院 歯科医師) 4) 対象者：看護職、介護職
企画の実施評価	・アンケート結果より 1) 総合評価(回答者 26人) ①良かった 26人 2) ご意見・ご感想等 ①最後のその時まで食べていただけるケアを心がけていきたいと思えます。心強い研修ありがとうございました。 ②今日はモデルになれたので、すごく良く分かり利用者側の気持ちがよくわかりました。今後のケアに生かしたいと思えます。今日は(も)ありがとうございました。





紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師)



黒岩恭子(村田歯科医院 歯科医師)



日高紀久江(筑波大学教授)

